持続皮下注射について

適応

- 薬剤の内服が困難な場合（悪心・嘔吐、腸閉塞、嚥下困難、意識障害）
- 短時間での症状マネジメントが必要な場合（重度の苦痛）
- 薬剤投与量の微調整が必要な場合（副作用が問題となるとき）

投与速度

最大1ml/ｈまでとする

・ただし、0.5ml/ｈを超えると徐々に吸収障害や痛みが問題となってくる

・レスキューを1時間に複数回使用することも考慮する

・6～12時間で定常状態に達するので、鎮痛不十分であれば、6～12時間ごとに増量することができる。
ただし、中等度以上の腎機能障害、肝機能障害がある患者では、薬剤の蓄積により、6～12時間後も血中濃度が上がる可能性があるため、眠気・せん妄などの過量投与の兆候があれば、減量する

レスキュー

約15分で最大効果が得られるため、効果不十分な場合には、15分おきに使用可能な設定にする

例：レスキュー設定

0.3ml/回　15分おきに使用可　4回/時間まで使用可